
 <協同のひろば>

ワーカーズコープ「エコテック」が目指すもの(3)

都 筑 建 (東京都/株エコテック・代表)

「エコアナライザー」は大気中の二酸化窒素(NO_2)の汚染度を測る機器として開発された。

しかし同じ NO_2 でも自動車やボイラーの排ガスは大気中のものより高濃度な為、センサー部を新たに開発し、その測定法も変えなければならない。又、残留塩素やCODや合成洗剤などの汚染状況の水質を測ることもできる。基本的には現在の「アナライザー」が土台となる。

このように「エコアナライザー」は大気汚染、水質汚染、農薬汚染、酸性雨など幅広い測定ができる。環境測定器といわれるゆえんである。

この開発には環境簡易測定法の開発者の天谷元群馬大教授と以前より環境測定器を製作販売していた筑波総研の合同でなされた。今回は、ハイテク技術を駆使し、価格(24,000円)の低原価と合せて画期的な製品となっている。

さらに特色のあるのは環境運動と密接につながっている点である。「NGO環境監視ネットワーク」が製品開発と同時に発足した。それは原発の周囲の住民に放射能簡易測定器を配置して監視活動を行っているR-DAN運動の拡大版である。

運動の道具である測定器の所有者がネットワークを作る点は、まず組織形成や運動理念が先にあるものとは一味も二味も違う点である。共通の測定法によって示されるデータは、どんな多弁よりも力を発揮する。すでにネットワークが100を越えようとしている。汚染マップを作成する日も遠くない。それにしても、このネットワークは現代の駆け込み寺の様相を示している。幹線道路や、工場排ガスの個別的被害は局所的であればある程、無視されやすく、苦悩は長時間となり深い。

このネットワークを皆さんの組織や団体で活用して欲しい。なにしろ、街の環境のデータを持つということは情報の発生源になれる、工場や事務所や作業現場のみに日頃活動範囲が限定される。

環境データは個人や単一組織のみが持っているあまり意味がない。隣りの人や街ともつながってはじめて環境問題が見えてくる。環境は地球規模に起っていることを忘れてはならない。皆さん一人一人が、あるいは組織としても、環境というテーマで地域に入ってゆける道具としてこの「エコアナライザー」を使って欲しい。そしてもちろん環境改善で持続可能な社会を作ってゆけることに少しでも寄与することを願っている。

ただ、データを基にする運動の場合、そのデータのみにとらわれて、データ論争に終始することだけは避けなければならない。通常データよりも変化がどれだけあるか、又、身の回りのあらゆることを自由に測るという楽しさと、軽いフットワークでやるのが肝心だろう。今、ネットワークの事務局をやるボランティアを探している。

廃食油(家庭で料理の時使うテンブラ油の残りなど)は河や湖や海への汚染の度合いは他の生活雑排水の中でも群を抜いて最悪なものである。現在この点は理解されて来ているが、かためて焼却ゴミとして出すことが多い。地球温暖化への悪影響があるばかりか、単なるゴミとして始末する結果になっている。これを石けんにして再資源化すれば、リサイクルの点からも素晴らしいことになる。昔から手作りの食油利用の石けん作りは各地の婦人団体を中心に進められていた。しかし品質を一定にしたりする点で難点があり、批判のあるところだった。

各地に廃食油を利用した石けん工場が建設されている。石けん製造機「エコサボン」「エコサボンミニ」はそれぞれ15ℓと2ℓの廃食油を石けんにする小規模な装置として開発された。

これまであったものに比べて、攪拌速度を2種類に増し、軽量化、可搬性に富み、低価格となっている。特に各自治体が生活雑排水対策の一環と

して、この石けん製造機を導入し啓蒙に努めているが、最適なものといわれている。

造られる石けんは基本的には粉石けんであり、その為に粉砕機が別に必要である。これも「エコミール」という改良型の低価格の装置を用意している。固形石けんも、プリン石けんもできる。

2ℓの廃食用油の「エコサボンミニ」は小中規模の給食、厨房施設や事業をやっているところ(例えば学校給食や、外食産業や食堂など)に向いている。廃棄物は発生源のところで処理することが定着して来た。大規模な焼却炉工場の建設や夢の島のような埋め立て方式も限界にきている。

グループで廃食用油を持ちよって石けんを作るのは楽しい。井戸端会議となって地域でのコミュニケーションの場となる。「エコアナライザー」と同じように地域作りに寄与する道具といえる。この他中規模の石けんプラントや廃食用油を利用した機器の開発も計画されている。

この他に「まぜたら石けん」も発売している。石けん化用にかセイソーダでなく非劇薬のオルトケイ酸ナトリウムを使用意された袋に廃食用油を入れ一日おいただけで石けんができるという超エコロジー製品である。(700円)

家庭生ゴミの再資源化を目指した製品として「エコセトル」を出している。現在は有料モニター中だが、発売は時間の問題となっている。「エコセトル」は乾燥や脱水や攪拌に動力を使わない。MJリアクターという活性炭と嫌気生ボカシ菌と好気性ボカシ菌をうまくシステム化した。

4～5人の一般的な家庭からは毎日平均400～800gの生ゴミが出るとされている。ボカシ菌を使うことによりゴミの減量化が早く、45ℓの「エコセトル」では3ヶ月投入した生ゴミを取り出すことなく水と堆肥にすることができる。すでに長浜市や富士宮市などでは購入の場合は助成金が付いている。

活性炭利用の為に、ボカシ菌のニオイさえせず室内の台所や人によっては居間に設置している人もいる。ゴミの悪臭化は現実的問題として大きな課題であった。価格も58,000円と手頃である。

さらに業務用のゴミ処理、再資源化プラントの設計・製造も行っている。それにより、家庭や学校給食などから出る生ゴミの堆肥化のものをさらに有機肥料作りに連結して「逆産直」のルーチンが作られることになる。特に都市型のゴミ処理として有効となる。集合住宅など庭を持たない家庭にとっては、特別大きな手間をかけず、将来有料化される生ゴミが生かされる。

ゴミといえば、牛乳パックもある。紙に漉くことは広く行なわれているが、より本格的にこの牛乳パックのみ100%で作ったノート「エコノート100」(150円)も用意している。デザインは「長良川河口堰反対」の絵ハガキでお馴染みの村上康成さんが担当している。

水環境と布傷みを考えて開発中のドラム式洗濯機「エコドラム」が本命商品としてある。生協等とタイアップして世に出そうとしているが、資金調達などに苦労している。この点で、良い情報があったら教示していただきたい。協同組合間協同をもっと発展させねば、本モノは作り出せないと痛烈に感じさせられている。

5kgタイプよりも2.5kgタイプの小型の「エコドラム」が早く皆さんの所に届けられそうだ。

これは単身者や高齢家族や、身障者(車イス利用)に最適な洗濯機となる予定である。

この他にも、福祉機器やソフトエネルギーの開発・製造を行なっている。

エコテックの独自の販売、メンテナンス網の「エコネット」も規約等を整備してよいよ本格的に活動しだした。是非、協同総研参加の皆さんや皆さんの知り合いで、環境や福祉やソフトエネルギーに賛同し、少しでも社会的使命に寄与し、そして事業としても成立したいという人や団体があったら紹介をしていただきたい。少しでも地球環境悪化を停めて、オルタナティブな生産・流通方式を確立し、地域興しをやり、仕事確保を自らの手で創り上げてゆくにもモノもヒトもカネもやはり必要である。エコテックはこれらの企画を行なうと共に、やはりモノ作りに最後までこだわりたいと願っている。